

表2 山口園芸グループ会社の概要

項目	ベルグアース株式会社	株式会社山口園芸
代表	山口一彦	
本社所在地	愛媛県宇和島市津島町北灘甲 88-1	
事業所所在地	研究技術開発棟（宇和島市津島町）、東京	山財（津島町）、長野（長野県東御市）、大洲研究室（大洲市）
創業	—	1952年（昭和27年）
設立	2001年1月	1996年2月
売上高	18億円（2005年10月期）	15億円（2005年12月期）
従業員	131名（2005年11月）	96名（2005年12月）
事業内容	野菜苗の生産・販売 種苗・農作物の仕入販売 農業用機械器具および園芸用資材の製造仕入れおよび販売 バイオテクノロジーによる研究開発 農業生産に関するコンピュータソフトの開発および販売	野菜苗の生産、応用技術の開発、技術指導

両社の関係については後述

2) 生産

1973年、低迷する花卉業界から「価格が自分で決められること」「受注販売でリスク負担が少ないこと」「マーケットの状況から購入苗需要の急拡大が見込まれること」などを踏まえ、思い切って事業転換を行いました。

それ以来接木苗作り一筋を貫き、卓越した「製造ノウハウ」を活かして、「困った時の山口園芸」とまで言われる存在となっていました。

3) 課題解決状況 ～研究開発への取り組み～

1999年苗業界で初めて、社内に「研究開発部」を設立。それまで培ってきたノウハウを研究開発部門で検証し、生産現場と一体となって問題点解決に向けて研究を行ってきました。その結果ユーザーである野菜農家へ、ほぼ「Just-In-Time」での商品供給が可能な段階にまで達しました。

研究開発の基本コンセプトが「研究のための研究でなく」、生産現場と一体となった問題の「抽出・研究・解決」の手法（ソリューション的な研究手法：課題解決型研究）が、大きな効果を上げる結果となったと思っています。

今後も、引き続き研究開発部は課題解決型研究手法を駆使し、技術開発への取り組みは継続して強化していく計画です。

①一次育苗で「苗質安定」のための品質向上策の研究

閉鎖型育苗技術の事業化システム導入による生産性向上（温度・湿度等を制御し均一な穂木と台木を生産する閉鎖型苗生産システムの確立）

結果として下記の効果を上げるに至りました。

- ・ヌードメイク苗の量産化による委託生産農場による生産規模拡大（後述）
- ・ユーザーに近い場所での生産による輸送コスト削減
- ・無農薬苗（e-ナチュラル）の製造・販売（同）

②接木の技術の研究

自動接木ロボットの問題点の抽出（歩留まりが悪く商業生産には向かないとの方向性を確立）、人の手による品質の安定・向上のための「正社員主体の接木作業」の確立が出来ました。

結果として下記の効果を上げるに至りました。

- ・安定した品質と量産化が可能となり、戦略商品「ヌードメイク苗」の商品化が出来た。
- ・作業マニュアルの制定により、パートの早期戦力化に向けての組織だった訓練・教育が可能となり生産性が向上した。
- ・自動接木ロボットによる接木の研究開発は広島所在の企業と連携し、今後需要拡大が期待されるトマトに特化し、事業化に向け研究開発中です。



③接木苗の貯蔵研究

接木苗貯蔵の実用化システム導入による生産性向上（接木後の苗を在庫として扱えることが可能となった）。

工業的な生産計画を実現し、季節変動の大きい苗需要に無理なく応えることが可能となりました。